

麦の生育を確認し、茎立期直前には麦踏みを！

令和8(2026)年2月24日
那須農業振興事務所

- ・ 生育：前年よりやや遅れている
- ・ **茎立期直前の麦踏みは必ず行う！**
→倒伏軽減、成熟ムラを無くす効果あり

1 生育調査結果（調査日：2/18）

近年の暖冬傾向を考慮し、昨年度に引き続き県北地域に適した播種時期を検討していきます。

ほ場場所幼稈長	播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼稈長 (cm)
湯津上（佐良土）	11/14	10.3	553	-
大田原南部（片府田）	11/20	10.5	503	-
大田原北部（北金丸）	11/22	10.0	293	-
	11/29	9.0	234	-
黒羽（大輪）	11/5	18.9	1,529	0.6
	11/16	13.8	1,110	-
(R7 参考) 湯津上	11/12	12.3	1,058	0.1
大田原南部	11/17	11.9	775	-
大田原北部*	11/25	11.3	403	-

※R7年産の大田原北ほ場は、調査ほ場がR8年産と異なるため参考値

- ・ 低温、少雨により、R7年産の同時期より生育はやや遅れている
- ・ 今後、気温は平年より高い可能性が高い（裏面参照）
→生育が急激に早まる可能性があるため、計画的に麦踏みを行う

2 麦踏み

茎立期直前の麦踏みが特に重要！

○効果

- ① 茎の伸長抑制▶**倒伏軽減**
- ② 穂揃いが良くなり、**成熟ムラを無くす**

※茎立期：幼稈長が2cmに達した日

（参考：R6年産 3/12頃、R7年産 3/23頃）

確認方法：1 ほ場で3か所程度（まんべんなくとる）、
生育が平均的な株を選ぶ
各株の主稈の葉を1枚ずつ剥く
図を参考に、定規などで幼稈長を測定する



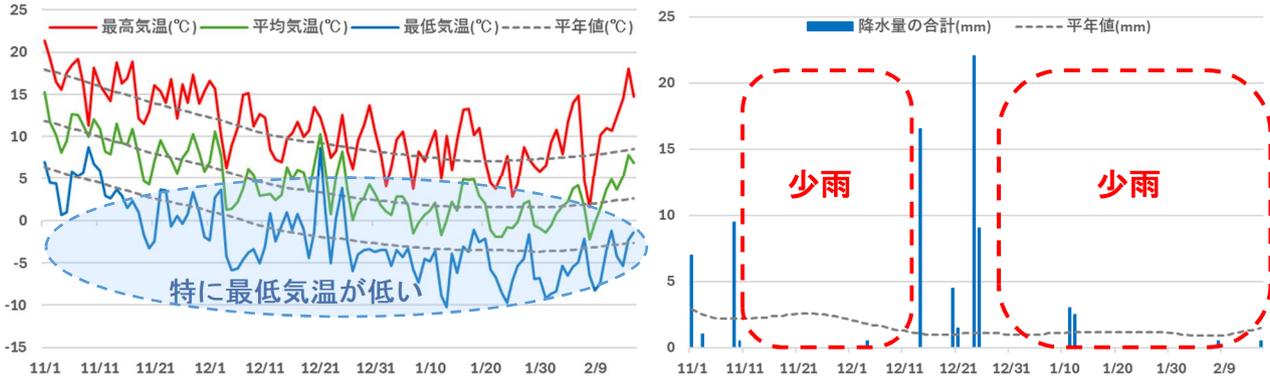
幼稈長の測定箇所



莖立期頃の二条大麦

- ほ場ごとに莖立期を迎えているか確認し、莖立期直前には必ず麦踏みを行う
- 前回の麦踏みから2週間以上間隔を空け、ほ場が乾いた状態で行う
(目安：靴に土がつかない程度)

【参考】生育期間中の気象データ（大田原アメダス）



【参考】関東甲信地方 1ヶ月予報（気象庁、2/19 発表）

向こう1ヶ月は、平年と比べて
気温が高い確率が50%（降水量、日照量は平年並み）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 02/21~03/20	■ 20 ■ 30 ■ 50
		1週目 02/21~02/27	■ 10 ■ 10 ■ 80
		2週目 02/28~03/06	■ 20 ■ 30 ■ 50
		3~4週目 03/07~03/20	■ 40 ■ 30 ■ 30
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 02/21~03/20	■ 30 ■ 30 ■ 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 02/21~03/20	■ 40 ■ 30 ■ 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

○麦踏みの有無による生育の違い（R6 年産、大田原市実取）
麦踏み実施の有無による収量調査の結果は以下のとおりです。
麦踏みを行うことで、単収が増加する傾向が見られました。

	穂数 (本/m ²)	単収 (kg/10a)
麦踏み有 (3回実施)	757	570
麦踏み無	719	519

